LS NEWS ライブラリースタッフ 号外

推し本・推し作家特集

2026.04.01発行

飯田図書館　春展示コラボ！

LS新聞1号～9号に掲載した、LSの推し本・推し作家についての記事を集めました！

『もうぬげない』 ヨシタケシンスケ

進級や入学など、これまでとは異なる新しい環境の中でなんとなく疲れたりやる気がでなくて困ったりしている方はいませんか？「もうぬげない」は服を脱ぐ途中で引っかかってしまった子どものこのままだったらどうしよう？という自由な発想でクスッと笑えてほっこりできる絵本です。

図書館には他にも懐かしい絵本が何冊もあると思います。大学生になるとなかなか絵本を読む機会はないと思いますが、子ども心を思い出して読んでみてください！

（LS新聞1号より）

(1)『チルドレン』 伊坂幸太郎
(2)『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦
(3)『ペンギン・ハイウェイ』 森見登美彦

1冊目、『チルドレン』。伊坂幸太郎さんの短編集です。破天荒な陣内と振り回されてばかりの後輩の武藤、盲目の永瀬や彼女の優子、魅力的なキャラクターが登場します。短編集と言いつつも繋がっていますので、時系列も考えながら読むと、より楽しめます。福祉に興味のあるあなたにおすすめしたい作品です。

2冊目、『夜は短し歩けよ乙女』。森見登美彦さんの小説です。京都を舞台にした作品で、「黒髪の乙女」こと、かわいい女子大学生と彼女に密かに思いを寄せる「先輩」を中心に不思議なことが起こっていきます。お酒を求めて歩いた先で、古本市で、あるいは学園祭で。京都に行きたくなる作品です。

3冊目、『ペンギン・ハイウェイ』。こちらも森見登美彦さんの小説です。突如、空き地に現れた沢山のペンギンたち。研究が好きな小学四年生のアオヤマ君が、ペンギンの謎を解明するべく、奔走します。ペンギンは仲良しのお姉さんが関係しているかもしれなくて…？　最後はちょっぴり切ない作品です。（LS新聞3号より）

『獣の奏者』上橋菜穂子

私がおすすめする本は、上橋菜穂子さんの『獣の奏者』です。物語は、一人の少女が多くの出来事に向き合いながら成長していく姿を描いており、その心の変化や葛藤が細やかに表現されています。

私がこの本に出会ったのは小学生のころで、学級文庫に置いてあったものを友人に勧められたのがきっかけでした。もともと本は嫌いではありませんでしたが、この作品は特に心に残っています。読み始めると丁寧に描かれた世界観に引き込まれ、朝の読書の時間だけでは足りず、休み時間になるとつい本を手に取って読み進めていました。「本ってこんなに面白いんだ！」と感じ、読書がさらに好きになった一冊です。気になった方はぜひ手に取ってみてください。（LS新聞9号より）

『蜜蜂と遠雷』 恩田陸

私がおすすめする本は恩田陸さんの『蜜蜂と遠雷』です。読書好きの父に勧められて手にしました。

この本は直木賞と本屋大賞を受賞し、映画化もされました。ピアノに打ち込む4人の人物が描かれています。それぞれの視点で、ピアノに対する向き合い方、弾く曲の解釈、苦悩や葛藤が繊細に描かれており、ピアノの世界に関して、無知だった私でも少しずつ物語に引き込まれていきました。この本を通して、音楽の美しさ・素晴らしさを感じました。

音楽について考えさせられ、ピアノを聴きたいと思わせてくれる一冊です。ぜひ読んでみて下さい。（LS新聞5号より）

米澤穂信(よねざわ　ほのぶ)さん

米澤穂信さんは岐阜県出身のミステリー作家です。京都アニメーション制作の「氷菓」で知られる通り、ライトノベルのような読みやすさを兼ね備えた作風が特徴的といえます。最近は〈小市民〉シリーズがアニメ化されたことでも話題になりました。

私が特におすすめする作品は『儚い羊たちの祝宴』です。夢見がちなお嬢様たちが集う読書サークル「バベルの会」を取り巻く5つの事件。その凄惨さに背筋がゾクゾクしながらも読み進める手が止まらない感覚、そして思わず震え上がってしまう衝撃のラストを、あなたもぜひ味わってみてください。（LS新聞4号より）

『阪急電車』 有川浩

自衛隊三部作シリーズや図書館戦争シリーズなど数々の名作を生み出し続けている有川浩(ありかわ ひろ)さん！そんな有川さんの本の中で私が紹介したいのは『阪急電車』です！

『阪急電車』は、電車が舞台です。電車内での運命を感じる出会い、諍い、励ましの言葉、そして別れの決意…登場人物たちは電車での出来事を通じて様々な思いを経験することになります。

主観ではありますが、この本は「幸せを見つける」ということが重要なキーワードなのではないかと感じています。この本には様々な登場人物たちが出てきます。誰もが自分なりの幸せを噛みしめているように感じられました。自分では見つけられなくとも、電車内で出会った人たちの言葉で気付き、形は違えど、どれほど小さな幸せだとしても、喜びを見出していました。

私たちが見えていないだけで、この世界には多くの「幸せ」が転がっているのではないかと思いました。些細な幸せだとしても、その幸せが私たちの何気ない日常を照らしてくれる光となります。人生は電車内から見る景色のように次々と移り変わっていきます。だからこそ、皆さんにもこのような移り変わる人生の中で多くの「幸せ」を見つけ、限りある人生を彩ってほしいと思っています。この本が、皆さんが「幸せ」を見つけようとする際の道しるべになってくれると信じています。（LS新聞7号より）

有川浩(ありかわ ひろ)さん

今回ご紹介するのは『図書館戦争』・『植物図鑑』など、有名な作品を生みだしている作家、有川浩さんです！映像化されているものも多いので、本を読んだことがなくてもドラマや映画は観たことがある人もいるのではないでしょうか？

友人が最近、「図書館戦争」の映画を観たという話をしていたので、久しぶりに部屋の本棚から有川さんの本を取り出してみました。読み返しながら、中学時代の朝読書の時間に『植物図鑑』を読み大号泣し、クラスのみんなや先生にまで心配をかけた苦い記憶を思い出すとともに、有川さんでしか書けない恋愛の細かい描写に浸っていました。どんな本も一気に読んでしまうほど面白いので、ぜひ読んでみてください！

（LS新聞2号より）